

夜勤の医師が1人、看護師が1人、具合が悪くて、うなりよるのに、2時間から3時間待たされました。これは、もう少し、医師の当直と看護師の当直を増やしていただけないだろうかという市民の要望です。

それと、リハビリに今まで1週間に1回行ってた人が1カ月1回しかもう診てもらわなくなつて、腕も何も固まってしまったらしいんです。だから、これも今までどおり1週間に1回してもらえないだろうかという要望ですので、市長から病院なりに、こういう要望が市民からあつてますよということを言ってください。

あそこの病院の中で、市長出せ、市長出せ、大騒動が起こってますのをわかってますか。大変なんです。パチンコ屋の整理券もらいですよ。朝7時から、具合の悪い人も何も全部ガードマンの人があれを渡すんですよ。

○議長（堀江 政武君） 時間になりましたので、簡明に願います。

○議員（3番 入江 有紀君） だから、その点も改善できないか、お願いします。

以上です。網代は次回に回します。

○議長（堀江 政武君） 市長答弁はいいですか。

○議員（3番 入江 有紀君） はい。

○議長（堀江 政武君） これで入江有紀君の質問は終わりました。

.....
○議長（堀江 政武君） 暫時休憩します。11時5分から再開します。

午前10時51分休憩

.....
午前11時05分再開

○議長（堀江 政武君） 再開します。

2番、小島徳重君。

○議員（2番 小島 徳重君） 会派つしまの小島徳重でございます。

2年前、平成25年5月の市議会議員一般選挙において、多数の有権者の皆様方の負託により、議会に送っていただき、議員として活動させていただいておりますことに感謝申し上げます。

任期の折り返し点を過ぎ、改めてその責務の重さを感じながらこの場に臨んでいます。

今後も「聴きます市民の声、届けます市議会へ、活かします市政に」をモットーに、市民本位の立場で議員活動に取り組んでまいります。

昨日の市長の行政報告でもありましたように、4月24日、文化庁の日本遺産第1号として、「国境の島 壱岐・対馬 ～古代からの架け橋～」が認定されたことを喜びたいと思います。国境の島ならではの連綿と続く交流は国と国、民と民との深いきずなが感じられる稀有な地域であ

ることが評価されました。認定を機会に、対馬が国内外に広く知られ、地域の活性化に弾みがつくことを期待しています。

昨日、小川議員さんが質疑の中で述べられたように、国境離島のPRとともに、この日本遺産認定も対馬市として大いにアピールすべきであるというふうを考えております。

うれしいニュースの反面、国境の地であるがゆえに、現在、対馬市民は、韓国で流行しているマーズコロナウイルスの脅威にさらされ、不安におののいています。市としては、先ほど入江議員さんの質問に対し、市長のほうから詳しい説明がありましたけども、今後とも、国県の関係機関、あるいは病院との連携を密にして感染防止に全力を期すとともに、市民に的確な情報を流していただくことを切望いたします。

それでは、通告に従い、一般質問を行います。

今回は、人口減少対策を首座に据え、関連する3項目についてお尋ねいたします。

まず1項目め、第2次対馬市総合計画策定と地方版総合戦略対馬市人口ビジョンについてお尋ねいたします。

総合計画は当市の最高理念であり、対馬市が目指すべき将来像を明らかにするとともに、その実現のための基本的な方向と施策の大綱を示すものであり、第2次対馬市総合計画の期間は2016年度から2025年度までとなっています。

当初の策定スケジュールでは、本年7月に素案発表、9月、市議会に上程となっています。策定の進捗状況は予定どおり進んでいるかどうかお尋ねをいたします。

また、主要目標の1つである総人口の見通しについてお尋ねします。

総人口の目標設定は、まち・ひと・しごと創生法に係る地方版総合戦略においても重要なポイントになります。第2次総合計画期間中、前期の目標年度である2020年度、後期の目標年度である2025年度の人口目標を何人に設定するのかお尋ねします。

中長期的な視点で2040年度、2060年度の目標についてもお尋ねします。

2項目め、学校教育における「ふるさと教育」の推進についてお尋ねします。

市民の間で対馬の現状が話題になるとき、子どもの姿が見えない。若者が少ない。このままでは対馬はどうなってしまうのだろうかという声をよく聞きます。総合計画等審議会資料を見ても、子ども、若者が減少し続けていることに対する市民の危機感が非常に強いことが取り上げられています。

第1次総合計画の理想のまちづくりの項で、若者の定住とU・Iターンを促すためには、誇りと郷土愛を育むことができる環境づくりが掲げられています。子どもの数は減少の一途をたどり続け、その上、進学、就職で島外に出た若者がUターンして対馬を支えようとする機運が高まらないという現実があります。

ふるさと対馬に定着し、対馬を自分たちの手で支えようという若者が少ない理由の1つとして、総合計画等審議会資料では、子どもたちの心の中に郷土愛が育ってないという分析がなされています。ふるさと対馬を知り、対馬を愛し、対馬を誇りに思う子どもを育成する教育、すなわちふるさと教育を充実することが若者の定着増加につながると考えます。

長崎県教育委員会では、本県教育の基本的方向性、10項目の2番目に、我が国と郷土を愛する心や豊かな人間性、社会性を育むことを提唱し、第2期長崎県教育振興基本計画の人づくりに向けた重点施策の5番目に、ふるさと教育の推進を掲げています。

対馬市教育委員会では、学校教育におけるふるさと教育を、教育方針や教育努力目標、重点事項等にどのように位置づけ、各学校ではどのような実践がなされているかお尋ねします。

3項目めとして、対馬市立保育所の人材確保と保育の質の向上についてお尋ねします。

対馬市公立保育所の職員構成を見ると、正規保育士が29名、嘱託保育士が34名、臨時保育士が三十数名となっています。この三十数名というのは、こども未来課でもまだ途中で増えたりしているからということで、正確な数は出ませんでした。ただ、三十数名という現実の数はいらっしやいます。

各保育所には、正規保育士と嘱託保育士を同数程度配置するような職員構成になっているようですが、正規保育士より嘱託職員数が多い保育所が4カ所あります。特に、規模が最も大きい雞知保育所では、正規の保育士6名、うち産休中の方が2名に対し、嘱託保育士が10名、臨時職員が十数名勤務しています。このような職員構成で円滑な保育所運営がなされているのか、保育の質が十分に確保されているかお尋ねします。

また、関連して、嘱託保育士、臨時職員の職務内容、勤務条件はどのようになっているかお尋ねします。

以上3項目について、簡潔で明解な御答弁をお願いいたします。

○議長（堀江 政武君） 教育長、梅野正博君。

○教育長（梅野 正博君） 順番は違いますが、2番目のふるさと教育について、私のほうからまず御答弁をさせていただきたいと思います。

対馬市の将来を担う子どもたちが郷土を知り、郷土を愛し、郷土対馬を活性化してくれることが市民の願いであり、そのような心を育てていくことが教育委員会の使命と考えます。

対馬市教育委員会は、対馬市教育努力目標に地域教育資源の活用と生涯学習を通じた地域教育力の再生を掲げ、その中で、郷土を愛するつまっ子の育成に力を注いでおります。

第1に、学校では、総合的な学習の時間を使って、対馬の自然、歴史、文化、産業について、地域学習を行っています。教室でパソコンや資料を使って調査するだけでなく、地域へ出て調査をしたり、体験したりすることを重視した学習活動を行っています。その過程で得た知識や地域

の方々との触れ合い、感動をまとめ、発表することで地域のすばらしさを発見したり、再確認したりして、郷土に対する誇りと愛着を持つことができていると信じています。

各学校の地域学習を本年度から対馬ケーブルテレビのつしまテレビ学習塾の新しい番組内容として、放送しようと準備を進めております。子どもたちの地域での活動と、それぞれの校区の自然、歴史、文化、産業の紹介により、対馬全体の理解にもつながると期待をしております。

これらの学習活動は、全ての学校で実態に応じて、さまざまな形で実践がされております。

対馬市教育委員会では、これらの活動の資料や社会科での郷土学習の補助教材として、昨年度、社会科副読本を改訂し、児童に配付いたしました。中学校でも、教育研究会で作成した社会科教材集を活用しています。また、昨年度から、つしまっ子郷土読本の編集を行っており、今年度、印刷製本を行い、児童生徒、小学校5年生以上でございますが、配布する予定としております。

第2に、地域学習の一環として、E S D、持続可能な開発のための教育の考えを取り入れた教育活動を進めております。E S Dとは、現代社会の課題をみずからの問題として捉え、身近なところから取り組むことにより、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そして、それによって持続可能な社会づくりの担い手を育む教育です。

これは、対馬の自然や暮らしを考える上で将来を見据えた子どもたちの行く末には効果のあるものだと考えております。

特色のある3つの小中学校のE S D教育を紹介したいと思います。

ウナギの生態学習、イノシシ、鹿の被害の現況と皮の活用学習等を題材として、対馬の将来を考え、できることから取り組んでいく事業モデルを実践をしております。今後も多くの学校で取り組んでもらうよう働きかけていきます。

また、対馬高等学校が長崎県下初のユネスコスクールの認定を2月に受ける中、同校と本市、環境省、3者が協力して環境教育の充実を図る協定を6月12日に締結がなされております。

小中学校におけるE S D教育を高等学校へ結びつけ、推進していくことも重要であると考えているところであります。

第3に、直接の学習活動ではありませんが、現在、各学校では、対馬の木材でつくった机の天板を使い、対馬の木のよさ、温かさを体感させているところです。

今年度は、これに加えて、学校にまきストーブの導入を計画しています。対馬の木をエネルギーとして活用することにより、自然エネルギーの大切さを学ぶとともに、ふるさとの森林の豊かさにも目を向けてほしいと考えております。

この4月に施行された改正地方教育行政法で設置が義務化されました総合教育会議でございますが、市長招集で5月26日に第1回対馬市教育総合教育会議が開催されました。今回の会議は、教育大綱の策定の取り扱いについてということで協議をしたところでございます。地域との連携

を大切にし、人の温かさを感じさせながら、郷土学習を進めることで、対馬を愛し、誇りを持つ子どもの育成につながるように、さらに充実した教育活動を進めたいと考えております。

○議長（堀江 政武君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 2番議員の質問に答えさせていただきます。

ちょっと順不同になりますが、今の2番の分についても、私のほうに通告があっておりましたので、ただいまの教育長の答弁にわずかばかり補足をさせていただきたいと思っております。

ふるさと教育というものについて、私どものほうとして、市長部局として、まずもって、今年度取り組もうとしている部分につきましては、例年、9月に開催をしていただいておりますふるさと実践塾がございます。これについては、9月に入ってからやってた関係もありまして、島内の子どもたちが参加することが不可能であったものですから、今年度から夏休みの8月の末に終わらせる日程に変更をして、全国からの大学生、大学院生、研究者も含め、呼びかけを今行っておるところでございます。既に、もう対馬高校のほうからも、五、六名の申し込み、参加申し込みがあっている状況であります。できれば対馬というものをわかるために、島外の人たちがどう見るのかというところをまた肌で感じる、直接意見を聞く場に、子どもたちをそこに入れていってもらう仕掛けを今しているところであります。

また、今年度から、島外の人たちに今声をかけておりますが、小中学生を対象としたこども寺子屋関係をまず実践をする予定です。単にその場の宿題をとというだけではなくて、先ほど申しましたように、対馬をどのように島外の学生さんたちが感じているかということを感じてもらう場に、そのときがなればというふうにも思っております。

また、高校生を対象とした学び舎対馬というものも、この夏休み期間中からも実践をしていく予定です。方向としては、先ほど言いましたこども寺子屋の高校生バージョンというふうに理解してもらえばよかろうかと思っております。

また、民間団体の取り組みとしまして、市のほうが助成を出している事業としまして、芳洲会のほうが雨森芳洲先生の歩みを小学生に理解できるようにということで、漫画の作成を今回予定をさせていただいているところであります。

また、5月27日の西泊を舞台にしました日露海戦の問題でございますが、この西泊の方たちの行動といいますか、そのあたりについても西泊の地区の人たちが、わがまち元気創出支援事業の市民特任事業を受けながら、そういうものをつくっていくと。そして、それを学校に配布をしていきたいというふうなお話も届いているところであります。

また、鹿見のほうの原田三郎衛門の功績というものをきちんとイベントとして今年度からやっていきたいという地区のほうが届いております、思いが。それらについても、校区の子どもたちも含め、そのイベント等で参加する中で地域の偉人のこととか、対馬に思いをめぐらしていただ

けるように、こちらとしてもそういう動きを支援をしていくことで進めておるところでございます。

2番目のふるさと教育の問題につきましては、私のほうは、それで終わらせたいと思います。

1点目の総合計画の問題と人口ビジョン及び総合戦略策定の御質問がございました。

1点目の総合計画、第2次の総合計画の策定状況について説明をさせていただければと思います。

このことにつきましては、本年の9月議会上程で策定を進める予定で、一昨年11月の議会全員協議会の折に、策定方針の説明会をさせていただいております。26年度より着手をし、地域マネージャー制度活用による地域づくり宣言、地域づくり計画からの本計画への反映、それから外部集落支援による関係団体、事業所等のヒアリングによる意見の反映等の整理が終了し、今、素案をまとめている状況であります。

現在、7月下旬に予定をしております第4回目となります対馬市総合計画等の審議会へ素案を提示する予定であります。その後、その御意見をいただき、修正したものを市議会のほうに説明する予定でございます。

先ほど申しましたように、当初の予定では9月に上程予定でございました。各地域、各校区の地域づくり宣言の策定がおくれている部分、それから総合計画等審議会の指摘事項の整理というものに時間を要している部分もございます。若干この予定がずれ込みかねないような状況でございまして、12月議会での上程というふうなことになるかという部分でございまして、

と申しますのも、この1点目で御質問がありました人口ビジョン、それから総合戦略の問題が、これには実は絡んでおります。どのような施策を来年度以降打ち込んでいくのかというふうなことで、国のほうから、今来ております。それらも並行して物事を組み立てている関係上、連動させる意味においても、そちらが12月に予定をしておりますので、これは国の施策との当然整合性をとらないといけませんので、そのあたりになっていくのかなというふうに思っております。

昨年の12月に立ち上げました対馬市人口減少対策本部において、3つの作業部会をこの6月10日に開催をしております。本年1月末から2月中旬にかけて実施をした、まず1つ目の子ども子育てアンケート調査、そして3月から4月に実施をしました転入転出窓口のアンケート調査の結果を示し、議論を始めたところであります。6月12日には本部会議を開催して、部会での意見紹介を示したところでございます。現在、さらに3つ目のUターン推進政策に関するアンケート調査というものを実施中でございます。平成26年度、27年に転出された18歳から29歳までの対馬市に本籍を有する男女1,000名を抽出し、Uターン意向、Uターンをする際に求める条件等を検証をする調査を、この5月12日から7月15日の間に、今している最中でございます。また、7月9日には、産・学・官・金・労・言及び市議会議員等を含めた外部委

員会組織として対馬市総合戦略推進会議を開催する予定でございます。作業部会と本部会議、そして外部の推進会議が両輪となって、必要な施策の提示及び検討、提案事項を相互に受けながら連携を図り、策定を進めてまいります。

御質問の今後の対馬市の人口目標設定でございますが、創業、仕事づくり関係施策、移住対策関係施策、結婚、出産、子育て関係施策、交流人口促進関連施策、高齢者等生きがい対策関連施策における各施策の連携及び波及効果、相乗効果というものを考慮して、成果目標を設定した上で、それらによる抑制幅を検討し、総人口や年齢3区分別の将来人口目標を設定することとしております。総合戦略の設定年度である2020年を基準年として、国の長期ビジョンの期間に合わせて2060年を将来目標年次として設定したいと考えております。今後、庁舎内の部会、本部会議と外部組織の推進会議の議論等を踏まえながら、対馬版の人口長期ビジョン及び総合戦略を策定していきたいと思っております。素案ができ次第、議員の皆様には説明の機会を予定しておりますので、御理解のほど、よろしくお願いいたします。

次に、3点目の市立保育所の人材確保と保育の質の向上の問題について説明させていただきます。

正規職員、嘱託職員の数等につきましては、2番議員のほうがおっしゃられたとおりでございますので、割愛させていただきます。

本年、4名の正規保育士の退職がありましたが、2名の保育士が再任用という形で保育所に残り、後輩保育士の育成に当たっております。また、2名の正規保育士を採用しております。保育所全体としましては、配置基準に沿って運営をしておるところであります。

また、2点目の嘱託、臨時非常勤職員の勤務条件の問題が2点目に出されておられました。正職、嘱託を問わず、早出、通常、遅出のこの3つのシフトで、対馬市嘱託員管理要綱により適切に勤務に当たっております。また、臨時職員につきましては、正職、嘱託保育士の代替えとして、保育に従事しており、こちらも適切な勤務体制となっております。

しかしながら、職員の年齢構成も高くなっております。このことを考慮しながら、今後とも正規職員の確保に努めていきたいというふうに考えておるところであります。

以上です。

○議長（堀江 政武君） 2番、小島徳重君。

○議員（2番 小島 徳重君） 御答弁いただきました。

まず、ふるさと教育のほうから話を少し詰めていきたいと思っております。

今、教育長のほうから答弁いただきましたように、各学校、教科、それから総合的な学習を中心に進められているということで、私も地域とか、あるいは訪問させていただいた学校でその状況は把握をさせていただいている面もありますし、また、新しく今年度市教委が有線テレビを使

って、そういう子どもたちの活動を発信して、そして対馬市民の方々に元気をとということで、そういう狙いを持ってあるということも評価したいと思っております。

それから、市長のほうからも答弁もあったように、いろんな地域ぐるみで子どもたちを育てようという、そういう支援を、市当局、それから教育委員会当局、わかったわけですが、ただ、私きょうこれを取り上げたのは、先般の議会でも大浦議員のほうからも同じような趣旨の質問があったんですけども、今回、私に取り上げたのは、学校教育において、具体的にどう展開されているかと、市教委はどういう方針のもとに進めているかということをお聞きしたわけです。

教育長の答弁にもありましたんですけども、地域ぐるみで子どもを育てるとか、あるいは地域の素材を生かすということは十分わかりました。ただ、私が質問の中で言ったように、市教委の教育方針、あるいは努力目標、あるいは学校教育課の重点施策の中に、ふるさと教育なり、あるいはふるさとを愛する教育なりということ、文言が掲げられてないように拝見しているんですが、このあたりは、教育長のほう、いかがでしょうか。

○議長（堀江 政武君） 教育長、梅野正博君。

○教育長（梅野 正博君） 市教委の方針としましても、ふるさと教育というのは、ここ数年、重要な教育内容だということで進めてきております。先ほども言いましたように、郷土を愛するつまっ子の育成ということ掲げて、将来は対馬のために頑張ってくれることを期待しながら、市民ともども、対馬についての愛着、理解、そういうものを深めていきたいというふうに考えております。

○議長（堀江 政武君） 2番、小島徳重君。

○議員（2番 小島 徳重君） 確かに、生涯学習課のほうの目標の中には、つまっ子を育てるという言葉があるんです。ところが、残念ながら、学校教育課のほうにはないんです。それから、大もとである市教委の教育方針、努力目標の中にも、やはり具体的に掲げられてないというのが少しこの場で指摘をした上で、今後ぜひ御検討いただきたいと思っているわけです。

なぜそのことを申すかということ、県教委の教育方針、それから重点施策を見ていただくとわかんと思います。はっきりと、私が質問の中で取り上げたように、そのことが取り上げてあります。とてもそれは大事な項目として県教委が取り上げているわけでありまして、ぜひ対馬市教委もこのことを次年度以降の教育方針、努力目標、そしてぜひ学校教育課の重点施策の中に掲げていただく。そうすると、各学校も、またそれを受けて、具体的なふるさと教育についての年間指導計画ができていくと思います。

私が知り得る限り、そのことを学校の教育方針なり、教育目標に掲げているのは、大船越小学校が1校だけ見つけることができました。

そうすると、それが教育目標なり努力目標の中に掲げられていますと、教育長答弁があったよ

うに、社会科の分野でも、それから理科では自然環境について、それから今度は学校行事においては特活含めて、それがまた具体化していくわけです。そして体験学習に結びついていくということになると思います。ぜひこのことについては御検討をお願いしたいと思います。

それから、教育長答弁にもありましたけど、やはり今年度から新教育委員会制度が発足したわけですから、今1回の教育総合会議を開いたということですが、市長の思いも今聞いたわけですが、それをぜひ教育総合会議で具体化していただいて、大綱の中にもふるさと教育ということを打ち出していきたいということを考えます。

それで、教育振興計画、これは去年の9月の議会で私指摘したと思うんですが、この作成制定のほうは進んでいるでしょうか、お尋ねをします。

○議長（堀江 政武君） 教育長、梅野正博君。

○教育長（梅野 正博君） 先ほどの1点目の関連ですけれども、学校教育課の教育環境の充実ということの中に、対馬を知るための総合学習のステップアップと、自然環境、歴史文化などの対馬らしさの学習ということで掲げておりますので、言われたことも含めながら検討していきたいというふうに思います。

○議長（堀江 政武君） 2番、小島徳重君。

○議員（2番 小島 徳重君） ぜひ、今申し上げたように、目標の中に掲げることと、そして各学校にふるさと教育の全体教育、教科領域全てにわたったものをつくっていただくことが、今既に準備されている副読本とか資料とか、あるいは地域の人材とか素材とかを生かすために必要だと思います。特に、昨今、対馬外から赴任いただく先生方が多いわけですので、一旦計画、素材があっても、それが計画がないと、担当が替わると生かされないということになりますので、ぜひそのことをお願いしたいと思います。

それから、ふるさと教育、やはり対馬の聖人、三聖人と言われる陶山訥庵、雨森芳洲、それから賀島兵介、これらの方々なんかは、社会科とか総合的な学習だけじゃなくて、道徳の教材あたりでもぜひどの学年かどの段階かで取り上げていただくということをお願いをしておきます。

そして、総合的な学習が主な体験の場になっているんですけど、小と中の連携がよくとれている学校ととれてない学校があります。それで、これもぜひ小中の連携、そういう意味では、佐須奈小中学校の総合的な学習は併設校ですから、一貫性がありました。ここはすばらしいと思いました。こういうのを隣接校でぜひつなげるように、そして、市長からも答弁があったように、高校にもこのことをつないでいただくということで、ぜひ進めていただきたいというふうに思います。

それから、ふるさと教育の一番きょうの中でお願いしときたいのが、この前、市民劇団の漁火が対馬物語を公演されました。私も島内であったやつ3回見せていただいたんですが、すばらし

い公演だと思っています。これをぜひ中学生のうちに1度対馬島内の全部の中学生に見せていただきたい。そうしますと、この中に、やはり対馬人の思い、あるいは対馬の立つ位置というのが劇の中に盛られているように思うんです。このことは、劇団の方々のあの熱気というのは、やはりこれは生でないと伝わらないわけですから、その思いというのをぜひ実現をしていただきたいと思いますが、これは予算を伴いますので、市長、どうお考えですか。

○議長（堀江 政武君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 今、2番議員がおっしゃられた対馬物語のミュージカルの話がありました。私もそれだけではないんですけども、学校教育課長と話す機会があったものですから、学校教育課長に、私も今年度から教育総合会議ということで一定のソフト部分に関しましても物が若干言えるようなことにもなりました。そういう意味で言わせていただいたことが、学校現場にお勤めの先生方、大変部活の指導等でお忙しいかもしれないけども、さまざまな生涯学習的な中で、今のふるさと学習に通ずるようなイベントというのが、対馬物語にしてもそうですが、あると。これらに学校現場の先生方の参加というのが少ないのではないかと。まず、子どもたちもそうだけど、先生方もやはり極力時間をつくっていただきながら、参加して、そして感じられて、子どもたちにさらにおろし込んでいくということも、どうか学校教育課としても取り組みをしていただけませんかということもお願いしたところでございますが、今、その意図するところは、全く今おっしゃられた部分と同じだというふうに思っています。

○議長（堀江 政武君） 2番、小島徳重君。

○議員（2番 小島 徳重君） ぜひそういう広い考え方の中の具体化として、対馬物語をぜひ対馬で生まれ育った子どもには1回見せていただいて、義務教育のうちに、そして島内に残る、あるいは島外に出ても対馬への思いを持ち続けるいい素材だと思いますから、ぜひこれ教育委員会と一緒にって具体化していただきたいということもお願いしておきます。

それから、2番目の人口減少対策に対しての問題で、総合戦略、総合計画と、それから人口ビジョン作成の地方版総合戦略のことをお尋ねしたんですが、その中で、ちょっとずれ込むかもしれないという御答弁です。これはちょっとまずいんじゃないかと思うんです。総合計画については、既に長期的なプログラムができています。長期的なプログラムができていて、全国の自治体が競ってやはりそれぞれの特色を生かした計画を早くつくろうと、もう既に3月の段階でそういうものを、人口ビジョンまでつくり上げたところもございます。対馬市の場合は、優に第2期の総合計画を今作成中ですから、それと連動させるというのは市長答弁わかるんです。それにしても、さまざまなデータ分析とか、アンケートも今一部やってるということですが、これをやっぱり早急にまとめ上げていただいて、そしてやはり早い時期に策定するということを考えていただきたい。

そして、私が聞きたいのは、これを第2次の総合計画をつくる段階で、市民を巻き込んだ計画ということアピールしてありました。それで伺いたいんですけど、昨年12月には、対馬の地域ごとに発表会、できたものの素案を発表会を7回開く。そして、ことしの5月には、地域住民にできた素案を報告会を開くというふうな提示があってました。このことは住民の意見を酌み取る、住民の力を生かすという意味でぜひ必要だと思うんですが、そのことは進んでいるかどうかお尋ねをしたいと思います。

○議長（堀江 政武君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 今の進捗の段階につきましては、担当部長のほうに答えさせたいと思います。

○議長（堀江 政武君） 総合政策部長、平間壽郎君。

○総合政策部長（平間 壽郎君） 以前、御説明をいたしましたとおり、この第2次の対馬市の総合計画には、従来、コンサル等に委託をして、ある意味、行政が行政主導の総合計画づくりということになっておったんですが、今回、地域の声とか、地域の特色を生かした総合計画づくりを目指すということで、そのためには、まず地域づくり計画を反映したものにしようということでございまして、その中で、地域の行動宣言というのを各地域につくっていただいております。現在、その行動宣言作成済みの地域が86ございまして、作成中というのが92地区ということでございまして、なかなか地域によって温度差がございまして、その辺の行動宣言、地域づくり計画の策定の進捗状況、そういったものが予定よりもやっぱり少し遅れ込んでいくということで、当初、9月の議会に上程を予定したものを12月と、これは地域版の総合戦略の策定ともちょうど重なる部分がございますので、連動したのもございますので、じっくりとそのあたりは人口ビジョンとともに、総合戦略の策定、そして総合計画の策定というものを固めていきたいと考えております。

○議長（堀江 政武君） 2番、小島徳重君。

○議員（2番 小島 徳重君） 私聞いたのは、いわゆる発表会や報告会は、総合計画をつくる段階での重要なステップだと思うんですが、そういうことは行われましたかということについてはどうですか。

○議長（堀江 政武君） 総合政策部長、平間壽郎君。

○総合政策部長（平間 壽郎君） いわゆる各181の行政区を単位として考えるものであれば、いわゆる地域づくり計画、そして行動宣言の策定、これをお願いしておりますので、この地域づくり計画、そして行動宣言の総合計画における位置づけというのは御説明を各地域で行っております。また、地域審議会等でも行っておりますし、現在、それぞれの地域でそれに取り組んでいただいているという状況だと認識しております。

○議長（堀江 政武君） 2番、小島徳重君。

○議員（2番 小島 徳重君） 今、部長答弁あったんですけど、やはりこうしてスケジュールをつくったなら、やはりそれに基づいて、それは少しずれたりはすると思うんですが、やはりこれだけ財部市長が打ち出したことは、市民協働、そして市民参加で、市民が自分たちで動くんだという理念のもとにやっているわけですから、ぜひやっぱこれはきちんと守りながらやっていくということをお願い、強く要望しておきたいと思っています。

そして、人口の目標はどうしますかということを探ねたら、市長のほうが、今からいろんな関連があるから、これからだということですけど、やはりこれ、今年度中に総合計画も立ち上げなきゃいけない、つくらなきゃいけないし、人口ビジョンもそうしないと、つくらないと、国に交付金も申請できないというわけですから、各自治体、全国競ってそれをやってるわけですから、やっぱ対馬市は立ちおけているなというイメージを与えたらいけないと思うんです。これはぜひ、やっぱ私、この前、総合政策部のほうに行き、担当の方に話伺ったんですけど、担当は必死でやってあります。担当必死でやってあるのはよくわかりました。データ分析もなされています。なされているから、あとはそれをいかに打ち出すか、詰めるかということで、やっぱトップ、財部市長が、人口はここに目標を置くんだと、何年度には何人の人口減で食いとめるんだという、それをやっぱはっきり示して、市民にも示して、そして打ち出さない限り、これ立ちおけてしまうという危惧をすごく私今しています。だから今回これ取り上げたんです。

そういう意味で、これを特に若者をいかに定着させるかということで考えていただきたいわけです。この表を、グラフを見ていただくと、これは市の出された情報です。これ2010年を基準にしてありますが、この推定の数字はいろんな機関とか国の機関とか出したものですが、押しなべてもう人口減っていくと。そして、このまましとくと、2060年には1万人を切るかもわからないという、このカーブです。これをどれだけとめるかということが、今対馬市にとって一番大事なことだと思うんです。そのためには、やっぱ具体的な数字を示して、今1年間に600人出ているわけですから、600人減っているわけですから、その600人減るのを、どこで何で食いとめるかということをお急ぎに打ち出すべきだと思うんです。それは総合計画にも人口ビジョンにも絶対必要なわけですから。

それから、時間が来たんですけど、3番目の保育所の問題は、きょう詳しくしている時間がなくなりましたので、1点だけお願いをしておきます。

特に、難知保育所については、正規の保育士が6人で、それ以外の保育士が、嘱託が10名、そして臨時が十数名で回転しているということで、私は未来課長さんに、職員の勤務表を出してくださいと言ったら、それは出せませんと言われたんですけど、それ勤務表を出していただいた上で、それぞれの保育士がどんな状況で勤務しているか。そして、保育の状況、現場をまた見せ

ていただいた上で、改めて質問をしたいと思っております。一応、きょうは、このことは資料提出だけお願いしたいんですが、どうですか。雞知保育所のだけやないでいいんですけど、保育所の先生方の勤務実績表で結構です。出せるか出せないか。

○議長（堀江 政武君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 担当部長のほうに答えさせます。

○議長（堀江 政武君） 福祉部長、仁位孝良君。

○福祉部長（仁位 孝良君） その勤務実績表の件につきましては、また課内で協議して、出せるものでしたらお示ししたいと思います。

○議長（堀江 政武君） 2番、小島徳重君。

○議員（2番 小島 徳重君） そういうことで、今、部長のほうから約束いただきましたので、勤務表をいただいた上で、また詳しくこのことは職員の採用とか勤務条件等については、改めて尋ねたいと思います。

以上です。

○議長（堀江 政武君） これで小島徳重君の質問は終わりました。

○議長（堀江 政武君） 昼食休憩とします。再開は1時からとします。

午前11時56分休憩

午後1時00分再開

○議長（堀江 政武君） 再開します。

13番、小宮教義君。

○議員（13番 小宮 教義君） 市民の声を生かす、市民の市政をモットーに頑張っております13番議員の小宮教義でございます。きょうは昼から1番ということで、眠とうございましょうけども、私の持ち時間はわずか50分でございますので、よろしくお願いを申し上げます。

どうですか、この経済大国第2位になったこの中国の動き、今、ベトナム、そしてフィリピンが領海と主張する東シナ海、ここに一方的に侵入をして、そしてサンゴ礁を埋め立てて、3,000メートル級の滑走路をつくったわけです。これに対して、寂しいことか、アメリカは何も言わない。アメリカは、世界の警察官と言われておりました。その力はどこに行ったのか。本来のアメリカの力を再度取り戻していただきたいと思っております。

最近うれしい話が1つございまして、今月の17日に公職選挙法の改正案が成立をいたしました。これは70年ぶりだそうでございます。そして、18歳から選挙に参加できるようになったわけでございます。18歳というと、もう高校3年生は18歳になるわけですが、このような若